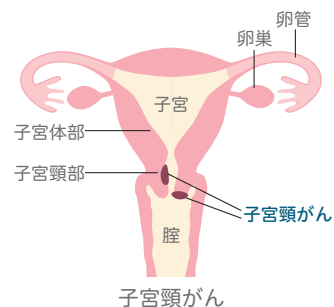




## 子宮頸がんってどんな病気ですか

- ① 子宮頸がんは子宮の入り口にできる癌です。  
子宮頸がんは婦人科検診で検査しやすく、発見しやすいがんです。  
症状は初期はほとんど自覚症状がありませんが、病気が進むと不正出血、性交渉時の出血、悪臭を伴う茶色のおりもの、下腹部や腰の痛みなどがあります。  
治療は早期に発見すれば比較的治療しやすく予後の良いがんですが、進行すると、リンパ節や肺などに転移し治療が難しいがんです。



## ② 原因はヒトパピローマウイルス (HPV) 感染です

原因のヒトパピローマウイルス (HPV) は、性交渉により女性の約8割が生涯に一度は感染するごくありふれたウイルスです。感染しても多くは自然に排除されますが、一部は子宮頸部前がん病変を引き起こします。

## 子宮頸がんは20～30歳代の若い女性に多い病気です

< 20～30歳代の子宮頸がん発症率 (10万人あたり) >

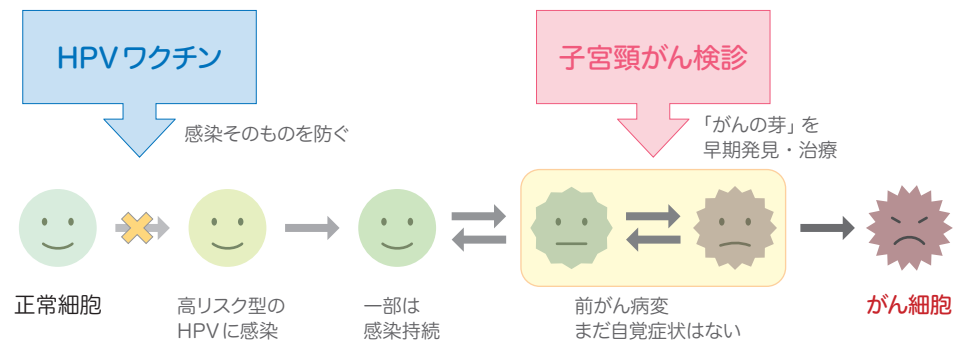
1990年 7.8人

約2倍に増加

2014年 16.8人

子宮頸がんの発症年齢は、女性の出産子育て年齢のピークと重なります。  
この年代の女性の発症率は乳がんを抜いて第1位です。  
原因であるヒトパピローマウイルス (HPV) はごくありふれたウイルスで、感染しても多くは自然に排除されますが、一部は気づかいうちに進行して子宮頸がんを引き起こします。このがんのために毎年約3000人の若い女性が命を失っています。

## ワクチンと検診で子宮頸がんを予防することができます



## HPV (ヒトパピローマウイルス) ワクチン定期接種

### 定期接種対象者

小学校6年生～高校1年生 相当の女子

標準的な接種時期 中学1年生



対象者のみ、定期接種として公費助成が受けられます。

同じワクチンを3回接種して予防します

\* 高校2年生になると自費接種になります (費用 計約5万円)

ワクチンに含まれている型に対しては90%以上の予防効果がありますが、ワクチンに含まれていない型のヒトパピローマウイルスによる感染は予防できないので、早期発見・治療のために検診も必ず受けましょう。



## 子宮頸がん検診 (20歳からスタート)